

はじめに

2022年に『2級キャリアコンサルティング技能士実技試験（論述・面接）にサクッと合格する本』を日本法令から上梓いたしました。おかげさまで多くの反響をいただいております。

その後、「2級キャリアコンサルティング技能検定の学科試験ってどうなの？」とのご質問を度々いただきます。また、

- 国家資格キャリアコンサルタントと何が違うの？ 出題範囲が同じって本当？
 - 国家資格キャリアコンサルタントのほうが難しいって本当？
- といったご質問もいただくことがあります。

本書は、そのような疑問に回答しています。

2級キャリアコンサルティング技能検定の学科試験について、「国家資格」との出題内容の比較、近年の出題傾向や出題の兆候がある事項を詳しく分析するとともに、サクッと合格するための勉強方法、押さえておきたいポイントについて、弊社の講師（キャリアコンサルティング技能士1級）の協力も得て解説しています。

2級キャリアコンサルティング技能検定の試験勉強は、独学する方がほとんどです。

そこで、まずは本書第2章の【2級学科試験学習チャート】（31ページ）にあるように、ご自身に今どれくらいの知識が身に付いているかをご確認ください。基礎的な知識が身に付いていれば、2級学科試験にもある程度対応できます。

これから2級キャリアコンサルティング技能士を目指している方、学科試験が苦手な方は、ぜひ本書を読んでください。一緒に合格目指して頑張っていきましょう！

令和5年7月
キャリアコンシーオー 津田 裕子

第1章

2級キャリアコンサルティング技能検定とは

1	2級キャリアコンサルティング技能検定の概要	10
(1)	キャリアコンサルティング技能検定とは	10
(2)	「2級キャリアコンサルティング技能士」に求められるレベル	10
(3)	受検資格	12
(4)	技能検定の内容	13
(5)	学科試験の概要	14
(6)	技能検定の合格率	15
(7)	キャリアコンサルティング技能検定の歩み	16

第2章

サクッと合格するための勉強法

1	出題の範囲と傾向を知る	20
(1)	出題範囲を確認しましょう	20
(2)	出題傾向を確認しましょう	22
2	国家資格試験との出題比較	26
3	2級学科試験合格に向けた具体的勉強法	31
(1)	基礎的な知識を押さえる	31
(2)	2級試験に向けた知識を補充する	33
(3)	問題を解くことに慣れる	33
(4)	さらに得点を伸ばすには	35

4	さらに当日に向けての準備	37
(1)	記憶を定着させる	37
(2)	マークシートに慣れる	37
(3)	時間配分に気を付ける	38
(4)	試験が始まったら	38
(5)	午後（論述試験）のことも少しだけ気にしておく （試験が終わったら切り替えも大事）	39
(6)	解答を書き記しておく	39
(7)	正解をチェックして、振り返りを行う	40

第3章 サクッと合格するための出題ポイント

1	労働政策及び労働関係法令並びに社会保障制度の 知識～頻出分野と最近の法改正を押さえる	43
(1)	頻出法令の確認	43
(2)	頻出法令のまとめ	45
(3)	最近の法制定・法改正について	49
①	雇用保険法等の一部改正（令和4年）	51
(1)	改正の趣旨	51
(2)	改正の概要	51
(3)	改正の詳細	51
②	育児・介護休業法等の一部改正（令和3年）	53
(1)	改正の趣旨	53
(2)	改正の概要	53

(3) 改正の詳細	54
3 雇用保険法等の一部改正（令和2年）	56
(1) 改正の趣旨	56
(2) 改正の概要	56
(3) 改正の詳細	56
4 新型コロナウイルス感染症等の影響に対応するための 雇用保険法の臨時特例等に関する法律（令和2年）	59
(1) 法令の趣旨	59
(2) 法令の概要	59
5 女性活躍推進法、労働施策総合推進法、男女雇用機会均等法、 育児・介護休業法の一部改正（令和元年）	60
(1) 改正の趣旨	60
(2) 改正の概要	60
(3) 改正の詳細	61
6 障害者雇用促進法の一部改正（令和元年）	62
(1) 改正の趣旨	62
(2) 改正の概要	62
(3) 改正の詳細	62
7 働き方改革関連法（平成30年）	64
(1) 改正の趣旨	64
(2) 改正の概要	64
(3) 改正の詳細	64
2 資料（白書・統計・報告書）関連の知識 ～頻出資料とそのポイント～	66
(1) 頻出資料の確認	66

(2) 頻出資料のまとめ	67
① 能力開発基本調査	69
(1) 資料の概要	69
(2) 資料の内容	69
(3) 資料の学習ポイント	69
② 職業能力開発基本計画	71
(1) 資料の概要	71
(2) 資料の内容	71
(3) 資料の学習ポイント	71
③ 労働力調査	74
(1) 資料の概要	74
(2) 資料の内容	74
(3) 資料の学習ポイント	75
④ その他労働市場に関する資料	77
(1) 一般職業紹介状況(職業安定業務統計)	77
(2) 毎月勤労統計調査	78
(3) 就業構造基本調査	79
(4) 雇用均等基本調査	82
(5) 賃金構造基本統計調査	83
⑤ 年次経済財政報告	84
(1) 資料の概要	84
(2) 資料の内容	84
(3) 資料の学習ポイント	85
⑥ 労働経済の分析	86
(1) 資料の概要	86
(2) 資料の内容	86

(3) 資料の学習ポイント	87
7 人づくり革命基本構想	88
(1) 資料の概要	88
(2) 資料の内容	88
(3) 資料の学習ポイント	89
8 成長戦略実行計画	91
(1) 資料の概要	91
(2) 資料の内容	91
(3) 資料の学習ポイント	92
9 キャリアコンサルタントの能力要件の見直し等に関する報告書	94
(1) 資料の概要	94
(2) 資料の内容	94
(3) 資料の学習ポイント	95
3 キャリアに関する理論の知識	
～頻出理論家と新たな兆候を理解する	97
(1) 頻出理論家の確認	97
(2) 頻出理論家のまとめ	100
(3) 本節で取り上げる理論（家）について	107
1 ナラティブ・アプローチ	108
(1) ジェプセン	108
(2) コ克蘭	109
(3) サビカス	109
(4) 質的アセスメント	111
2 文化や社会に配慮したキャリア形成支援	112

(1) リチャードソン	112
(2) ファドとビングハム	113
(3) アーサー	113
(4) ブルースティン	114
(5) ワッツ	114
(6) 用語解説：エンパワーメントとアドボカシー	115
3 動機付け理論	117
(1) マズロー 欲求5段階説	117
(2) ハーズバーグ 二要因理論	117
(3) マクレガー X理論・Y理論	118
(4) アルダーファ ERG理論	119
(5) マクレランド 欲求理論	119
(6) アトキンソン 達成動機理論	120
(7) アダムス 公平理論	121
(8) ブルーム 期待理論	121
(9) ロックとレイサム 目標設定理論	122
(10) デシ 内発的動機付け理論	122
4 その他	123
(1) ピーヴィ	123
(2) ピーターソン、 Sampson、レンツとリアドン	123
(3) レント、ブラウン、ハケット	124
(4) ゴットフレッドソン	124
(5) パルテス	125
(6) アーサー	125
(7) ワナウス	126

4 倫理と行動の知識

～キャリアコンサルタントとしての「あり方」、 求められるスタンスを理解する	127
(1) キャリア形成及びキャリアコンサルティングに関する 教育並びに普及活動	128
(2) 環境への働きかけの認識及び実践	129
(3) ネットワークの認識及び実践	131
(4) 自己研鑽及びキャリアコンサルティングに関する 指導を受ける必要性の認識	133
(5) キャリアコンサルタントとしての倫理と姿勢	135

第4章 模擬問題

(1) 模擬問題①について	142
(2) 模擬問題②について	142
(3) 模擬試験の実施要項 (①、②共通)	143

1 模擬問題①

模擬問題① 正解表	170
模擬問題① 解答解説	171

2 模擬問題②

模擬問題② 正解表	220
模擬問題② 解答解説	221

© 模擬解答用紙 243

第1章

2級キャリアコンサルティング 技能検定とは



1 2級キャリアコンサルティング 技能検定の概要

(1) キャリアコンサルティング技能検定とは

キャリアコンサルティング技能検定とは、技能検定職種の一つとして2008年に追加された試験で、キャリアコンサルティングの知識と技能を評価する国家検定です。この試験は、学科試験と実技（論述および面接）試験で行われ、両方の試験に合格すると試験等級に応じた「キャリアコンサルティング技能士」の称号が付与されます。試験等級には1級と2級があります。

(2) 「2級キャリアコンサルティング技能士」に求められるレベル

2級キャリアコンサルティング技能士として求められているのは、「個人の相談に対して相談者との関係構築のもとに問題・課題などを見立てることができ、1対1の相談支援が的確にできるレベル」です。

現在、キャリアコンサルタントの資格は3つあります。国家資格キャリアコンサルタント、2級キャリアコンサルティング技能士、1級キャリアコンサルティング技能士です（本書では、以下それぞれ、「国家資格」「2級技能士」「1級技能士」ともいう）。


一般的に国家資格は「標準レベル」、2級が「熟練レベル」、1級が「指導レベル」と言われています。では、この「熟練レベル」とはどの程度なのでしょう。

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会（以下、「協議

会」ともいう。<https://www.career-kentei.org>) のウェブサイトでは、「2級キャリアコンサルティング技能士」に求められるレベルとして、「個人の相談に対して相談者との関係構築のもとに問題・課題などを見立てることができ、1対1の相談支援が的確にできるレベルです。」との記載があります。

次の図は、国家資格、2級技能士、1級技能士それぞれについて求められるレベルを整理したものです。各資格と比較する中で、熟練レベルである2級技能士のレベル感をつかんでいただければと思います。

【キャリアコンサルタント関連資格のレベル】

 能力水準	1級キャリアコンサルティング技能士 (指導レベル)	1つ以上の専門領域を持ち、それ以外の領域においても一定以上の支援が可能、かつ、スーパービジョン機能および領域間のコーディネート機能も併せ持つレベル
	2級キャリアコンサルティング技能士 (熟練レベル)	豊富な実践経験を有し、在職者・求職者のみならず、学生・生徒も含めた幅広いクライアントに対して「厚みと広がり」を持った支援が可能なレベル
	国家資格キャリアコンサルタント (標準レベル・非熟練レベル)	典型的な場面・クライアントに係るキャリアコンサルティング(職業選択、職業選択設計、職業能力開発に関する相談、助言、指導)を、クライアントの安心感を持って実施する、知識、技能、倫理等の基盤を有するレベル

(厚生労働省「キャリアコンサルタントの能力要件の見直し等に関する報告書」(<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000199219.html>)をもとに著者作成)

(3) 受検資格

2級キャリアコンサルティング技能士は熟練レベルとされており、受検のためには一定の経験や資格、条件が必要となります。2級キャリアコンサルティング技能士の受検資格は以下の通りです。一読すると、国家資格キャリアコンサルタントの受検資格よりも、より長期の実務経験や専門性が必要とされていることがわかると思います。なお、受検資格の詳細は、必ず協議会のサイトで最新のものをご確認ください。

【2級キャリアコンサルティング技能検定受検資格】

- ① 5年以上の実務経験を有する者
 - ② 4年以上の実務経験を有する者で、大学（※1）において検定職種に関する科目（※2）について20単位以上修得し、卒業したもの
 - ③ 4年以上の実務経験を有する者で、キャリアコンサルタント試験（※3）の受検要件を満たすものとして厚生労働大臣が認定する講習を修了したもの又はこれと同等以上の講習を修了したもの
 - ④ 3年以上の実務経験を有する者で、大学院（※4）において検定職種に関する科目（※2）について8単位以上修得し、修了したもの
 - ⑤ 3年以上の実務経験を有する者で、キャリアコンサルタント試験（※3）に合格したもの又はキャリアコンサルタントであるもの（※5）
- ※1 大学には、課程が学校教育法による大学の学士課程と同等の教育水準であると独立行政法人大学改革支援・学位授与機構によって認定された大学及び学校教育法による大学と同等以上と認められる外国の学校を含む。
- ※2 検定職種に関する科目とは、研究科や専攻の名称にとらわれず、心理学・教育学・社会学・経営学・社会福祉学・看護学・その他の人間科学及び人事・労務管理関連科目のうち、協議会が認めたものに限る
- ※3 キャリアコンサルタント試験とは、職業能力開発促進法（昭和44年法律第64号）第30条の4に規定するキャリアコンサルタント試験をいう。
- ※4 大学院には、学校教育法による大学院の他、課程が学校教育法による大学院と同等の教育水準であると独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が認定した大学院及び学校教育法による大学院と同等以上と認められる外国の学校を含む。
- ※5 キャリアコンサルタントであるものとは、職業能力開発促進法第30条の3に規定するキャリアコンサルタントであるものをいう。

（出典：受検概要（協議会） <https://www.career-kentei.org/about/>）

(4) 技能検定の内容

では次に、実際にこの試験がどのような試験なのかを確認していきましょう。2級キャリアコンサルティング技能検定の内容をまとめると以下の通りです。

試験	試験内容	出題形式	試験時間	合格基準
学科試験	筆記試験	四肢択一のマークシート方式による解答 (50問)	100分	100点満点 で70点以上
実技試験	論述試験	記述式による解答 (1ケース)	60分	100点満点 で60点以上
	面接試験	① ロールプレイ (受検者がキャリアコンサルタント役となり、相談を行う。ケース内容および試験実施の概要については、受検票に記載) ② 口頭試問 (自らの相談について試験官からの質問に答える)	30分 ・ロールプレイ (20分) ・口頭試問 (10分)	100点満点 で60点以上 ※

※ 評価区分ごとに満点の60%以上の得点(所要点)が必要。

(出典: 受検概要(協会会) <https://www.career-kentei.org/about/>)

- ① 技能検定は、学科試験と実技試験があります。実技試験は、論述試験と面接試験です。
- ② 技能検定合格のためには、学科試験、実技試験双方に合格する必要があります。
- ③ 学科試験と実技試験は別々に受検することが可能です。どちらか一つに合格した場合、合格した試験が一定期間(合格した試験実施日の翌々年度末まで)に限り免除されます。期間内に他方の試験に合格すれば、技能士の称号が付与されます。
- ④ 実技試験(論述試験と面接試験)は別々には受検できません。
- ⑤ 学科試験と論述試験は同日(午前:学科試験、午後:論述試験)に行われます。

- ⑥ 面接試験は、学科・論述試験の翌月に実施されます。
- ⑦ 2級技能検定は1年度内に2回（前期試験：論述6月・面接7月頃、後期試験：論述12月・面接1月頃）実施されます。検定スケジュールと検定の開催地情報など詳細は、協議会のホームページに掲載されます（<https://www.career-kentei.org/about/schedule/>）

(5) 学科試験の概要

それでは、学科試験はどのような試験なのでしょう。

学科試験は年に2回、6月（前期）と12月（後期）に行われます。論述試験と同日に行われ、午前中に学科試験、午後に論述試験が行われます。学科試験と実技試験は別々に受検することが可能なので、学科試験だけ受検する場合は、学科試験が終われば帰れます。実技（論述）試験も受検する場合は、学科試験が終わるとお昼休憩をはさんで、午後の実技（論述）試験に臨むことになります。

試験時間は100分。出題形式は、四肢択一式（マークシート方式）で、問題数は50問です（具体的な出題内容などは、第3章で解説しています）。

試験中は、受検票、腕時計（腕時計型ウェアラブル端末の使用は不可、音を発するものも不可）、筆記具（黒の鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム）以外のものは机の上には置けません。その他、当日の試験係員からの指示、問題用紙に書かれている注意事項はしっかりと確認をしておきましょう。そのつもりはなくても不正行為とみなされてしまう可能性もありますので、要注意です。

なお、試験後、解答用紙は回収されますが、問題用紙は持ち帰り可能です。自身の解答を書き残しておくなどして、振り返りに役立てましょう。そして、試験日の翌日（たいてい午前10時頃）には、技能検定のサイトに問題と解答がアップされます。

(6) 技能検定の合格率

実際に受検するとなると気になるのが合格率です。そこで、これまでの合格率をまとめました。

全体を眺めてみると、近年では50～60%台で推移しています。合格率が一番高かったのは、第22回の81.07%でした。一見すると（そして、実技試験と比べると）合格率は高く見えます。たしかに、実技試験の合格率が20%に届いていないことを考えれば、少し余裕を感じるかもしれません。ただし、学科試験は、合格率の変動が大きいことに注意が必要です。特にここ数年は、毎回10%近く合格率が変動しています。この状況を踏まえて、しっかりと準備をして臨む必要があります。

【2級キャリアコンサルティング技能検定の合格率】

年度	回次	学科試験	(参考) 実技試験
令和4年度	第29回	68.87%	15.36%
	第28回	57.40%	17.63%
令和3年度	第27回	66.77%	19.01%
	第26回	57.37%	19.73%
令和2年度	第25回	63.04%	16.82%
	第24回	中止	
令和元年度	第23回	78.38%	18.71%
	第22回	81.07%	16.40%
平成30年度	第21回	64.14%	12.05%
	第20回	80.89%	15.47%
平成29年度	第19回	51.68%	15.03%
	第18回	59.84%	13.58%
平成28年度	第17回	62.70%	15.27%
	第16回	73.65%	16.45%

平成27年度	第15回	48.94%	18.83%
	第14回	53.32%	17.56%
平成26年度	第13回	58.85%	18.98%
	第12回	—	17.22%
平成25年度	第11回	64.49%	20.60%
	第10回	—	22.44%
平成24年度	第9回	54.32%	24.95%
	第8回	—	31.65%
平成23年度	第7回	29.98%	26.10%
	第6回	—	23.30%
平成22年度	第5回	27.88%	25.51%
	第4回	—	24.96%
平成21年度	第3回	45.20%	23.30%
	第2回	—	21.95%
平成20年度	第1回	51.36%	17.24%

※第24回試験は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止されました。

※第25回試験から、現行の試験範囲に則った試験が行われています。

※学科試験は、平成26年度までは年1回の実施でした（現在は、年2回実施）。

(7) キャリアコンサルティング技能検定の歩み

本章の最後に、キャリアコンサルティング技能検定の歩みについて見ておきましょう。直接試験で問われることはないかもしれませんが、この技能検定が誕生した背景と、どのような歩みをたどってきたかを知っておくことで、今、そして、これからのキャリアコンサルティング技能士に何が求められているか、より深く知る一助になるかと思えます。

経済・社会環境が急激に変化し、予測のつかない不透明な時代の始まりに伴い、我が国では、個人の自律的なキャリア形成を支援する労働市場のインフラ整備の一つとして、キャリアコンサルティング施策が打ち

出されました。

以来、我が国の雇用対策の重要な柱としてキャリアコンサルティングが位置付けられ、2008年（平成20年）より、これを担うキャリアコンサルタントの技能水準を国家基準により公証する「キャリアコンサルティング技能検定」がスタートしました。

以下は、キャリアコンサルティングおよびキャリアコンサルティング技能検定の歩みを時系列でまとめたものです。

【キャリアコンサルティング技能検定の歩み】

2001年（平成13年）

「第7次職業能力開発基本計画」策定

労働市場を有効に機能させるためのインフラストラクチャーの柱の一つである「キャリア形成の促進のための支援システムの整備」の中で、キャリアコンサルティングの必要性が示されました。

2007年（平成19年）

「キャリア・コンサルタント制度のあり方に関する検討会」報告書発表

厚生労働省より、キャリアコンサルタントを質量両面で充実を図る対策のあり方についての検討結果報告書が発表されました。

2008年（平成20年）

キャリア・コンサルティング技能検定（2級）開始

2009年（平成21年）

「キャリア・コンサルティング研究会報告書」発表

中央職業能力開発協会（厚生労働省委託）より、「指導レベル」のキャリアコンサルタントに求められる能力要件・評価の枠組み等についての報告書が発表されました。

2011年（平成23年）

キャリア・コンサルティング技能検定（1級）開始

2014年（平成26年）

技能検定試験の試験範囲の見直し・拡充

平成23年の標準レベルキャリア・コンサルタント能力評価試験要件変更を受け、「学校教育制度やキャリア教育についての理解」、「ジョブ・カードを活用したキャリア・コンサルティング」等が追加されました。

2016年（平成28年）

キャリアコンサルタント国家資格化

2020年（令和2年）

技能検定試験の試験範囲の見直し・拡充

平成30年の国家資格キャリアコンサルタントの能力要件変更に伴い、「企業におけるキャリア支援」、「リカレント教育」、「職業人生の長期化、仕事と治療、子育て・介護と仕事の両立等の課題に対する支援」などが追加となりました。

（参考文献等）

「第7次職業能力開発基本計画」、厚生労働省（2001）

労働政策研究・研修機構（編）『新時代のキャリアコンサルティング』、労働政策研究・研修機構

木村周『キャリアコンサルティング理論と実際 6訂版』、雇用問題研究会

協議会のサイト <https://www.career-kentei.org/>

※なお、現在は「キャリアコンサルティング」、「キャリアコンサルタント」と表記することになっていますが、各文献の発表当時の表記のまま掲載しています。

第2章

サクッと合格するための勉強法



1 出題の範囲と傾向を知る

(1) 出題範囲を確認しましょう

試験対策のために、まずやるべきことは、出題範囲の確認です。

受検者の話を聞いていると、「試験範囲を見たことがない」という方が意外に多いです。試験範囲は試験に関する情報の宝庫です。

試験範囲というのは、「ここから問題を出しますよ」「この部分を勉強しておいてくださいね」と教えてくれているものです。もっと言うと、「キャリアコンサルタントとしてこれくらいのことは知っておいてくださいね」というメッセージでもあります。試験に合格するためにも、また、効率的・効果的に勉強を進めるためにも、まずは試験範囲を確認するところから始めましょう。

試験範囲については、協議会のサイトに掲載されています。

◆ (2級) 試験科目及びその範囲並びにその細目

https://www.career-kentei.org/wordpress/wp-content/uploads/2019/12/grade2_kamoku_hani2020.pdf

この概要をまとめたものが、次の表になります。ちなみに、この試験範囲は、2020年に変更があり、第25回試験から現行の内容に基づいて試験が行われています。

【学科試験の試験範囲】

試験範囲	
I キャリアコンサルティングの社会的意義	1 社会及び経済の動向並びにキャリア形成支援の必要性の理解 2 キャリアコンサルティングの役割の理解
II キャリアコンサルティングを行うために必要な知識	1 キャリアに関する理論 2 カウンセリングに関する理論 3 職業能力開発（リカレント教育を含む）の知識 4 企業におけるキャリア形成支援の知識 5 労働市場の知識 6 労働政策及び労働関係法令並びに社会保障制度の知識 7 学校教育制度及びキャリア教育の知識 8 メンタルヘルスの知識 9 中高年齢期を展望するライフステージ及び発達課題の知識 10 人生の転機に関する知識 11 個人の多様な特性に関する知識
III キャリアコンサルティングを行うために必要な技能	1 基本的な技能 (1) カウンセリングの技能 (2) グループアプローチの技能 (3) キャリアシートの作成指導及び活用の技能 (4) 相談過程全体の進行の管理に関する技能 2 相談過程において必要な技能 (1) 相談場面の設定 (2) 自己理解の支援 (3) 仕事の理解の支援 (4) 自己啓発の支援 (5) 意思決定の支援 (6) 方策の実行の支援 (7) 新たな仕事への適応の支援 (8) 相談過程の総括

IV キャリアコンサルタントの倫理と行動	1 キャリア形成及びキャリアコンサルティングに関する教育並びに普及活動 2 環境への働きかけの認識及び実践 3 ネットワークの認識及び実践 4 自己研鑽及びキャリアコンサルティングに関する指導を受ける必要性の認識 5 キャリアコンサルタントとしての倫理と姿勢
----------------------	---

ご覧の通り、試験範囲は幅広く、それぞれに含まれる知識の量もかなり膨大です。学科試験はこの試験範囲全体から出題されます。

また、学科試験は、この表の冒頭の「I キャリアコンサルティングの社会的意義 / 1 社会及び経済の動向並びにキャリア形成支援の必要性の理解」から、最後の「IV キャリアコンサルタントの倫理と行動 / 5 キャリアコンサルタントとしての倫理と姿勢」まで、全ての領域から、おおよそこの試験範囲に掲載されている順番に沿って出題されます。

この試験範囲を知らないと、学科試験はどこから何が出てくるかわからないように感じて、対策も手探り状態になってしまいます。しかし、試験範囲を知ることで、実は決められた範囲から規則正しく出題されていることがわかります。

(2) 出題傾向を確認しましょう

そして、次に気になるのは、試験範囲のどの領域からどのくらい出題されているのか、ということだと思います。そこで、領域ごとの出題数をまとめてみました。

〔著者略歴〕

つだ ひろこ
津田 裕子

キャリアコンシーオー 主宰／株式会社リバース 取締役

大阪府出身。大学卒業後は一般企業にて一般事務や経理、総務、人事を経て、採用担当として面接官を経験。その後、職業訓練校での講師経験を機に2014年からキャリアコンサルティング分野への造詣を深める。2016年にはキャリアコンサルティング技能士2級に合格。同年から国家資格化されたキャリアコンサルタントとして登録した。

現在はキャリアコンサルタント事業を展開する「キャリアコンシーオー」にて合格講座を運営。学生への就職サポート、企業内や企業外のキャリアコンサルティングなども行い、これまでに1万件を超える相談実績がある。また、厚生労働大臣指定のキャリアコンサルタント養成講習、更新講習も開講、運営している。

- ・ 2級キャリアコンサルティング技能士（国家資格）
- ・ 国家資格キャリアコンサルタント
- ・ 中学校教諭第一種免許 社会科
- ・ 高等学校教諭第一種免許 地理歴史科
- ・ 高等学校教諭第一種免許 公民科
- ・ GCS プロフェッショナル認定コーチ
- ・ NPO 法人 国際メンターシップ協会認定アソシエイトメンター
- ・ JNEC ネイリスト技能検定1級
- ・ JNA ジェルネイル技能検定 上級

〔執筆協力〕

おくだ ひろこ
奥田 裕子

人事・組織開発のコンサルタントとして数多くの企業の従業員の方たちとかかわる中で、個々人へのキャリア形成支援の必要性を強く実感し、キャリアコンサルティングの世界に関心を寄せるようになる。その後、主に公共の就労支援機関や需給調整機関、職業訓練学校でのキャリアコンサルティングやセミナー講師業務などに従事するとともに、一般のビジネスパーソンに向けたキャリアコンサルティングやコーチングを行う。また、近年ではキャリアコンサルタントの有資格者や資格取得を目指す方たちへのスキルアップや資格取得の支援にも積極的に取り組んでいる。

- ・ 1級キャリアコンサルティング技能士（国家資格）
- ・ 2級キャリアコンサルティング技能士（国家資格）
- ・ 国家資格キャリアコンサルタント
- ・ 産業カウンセラー